

全国滋賀県人連合会筆頭副会長
ふる里滋賀県人会会長

蔭山 孝夫

全国滋賀県人連合会副会長
静岡滋賀県人会会長

平居 匡儀

彦根市長

和田 裕行

対談日:令和5年1月12日
場所:彦根市役所

「をりをりに 伊吹を見てや 冬筈」(元禄4(1691)年、芭蕉、48歳 ※句碑は高宮・高宮神社にもあり)

平居会長…今日は多忙の中、時間を割いていただき、誠にありがとうございます。私は30数年前まで、彦根に住んでいました。そのため、彦根市長との対談を担当することになりました。また、蔭山孝夫ふる里県人会長には全国滋賀県人会連合の要として全国及びふる里をまとめ、最近では滋賀県人会・近畿大会の実行委員長として成功に導いていただけました。また滋賀建機グループ会長として滋賀県財界の重鎮として経済界、特に県北部でもまとめ役として活躍されています。そこで、蔭山会長にも対談に参加していただくことにしました。

近江鉄道の存続

——上下分離方式での経営

蔭山会長…和田市長との対談に加わることに、市長に近江鉄道についてお聞きしたいことがあります。朝夕通勤・通学時には乗客も多く、八日市に住む人にとってはなくてはならない大事な交通機関なので、存続を望んでいます。湖東地域の要である「近江鉄道」に彦根市としてどのように取り組んでいくかとしておられますか。

和田市長…彦根市にはフジテック前駅とスクリーン駅があり、企業活動という意味でも重視しています。当然、通学でもご利用いただいていますし、これらがなくなると大変なことになりますので必須のものです。彦根市には近江鉄道の本社もございまして、東近江市に次いで重要な責務を担っていると認識

しております。上下分離も今のままだと行政がただ赤字を補填しているだけになってしまいます。黒字化というのは相当大変ですが、しっかりと経営を改善していかなければいけませんので、色々なアイデアを出して、地元の負担をできるだけ軽減できるように前向きに取り組んでいきたいと思っております。インバウンドに視点を置くとまだまだマーケットとして残っているパイがあります。鉄道のない国から彦根城に来ていただいた方々に鉄道を紹介できるというのも魅力の一つです。インバウンドを見込んだ観光施策も、彦根城だけでは1泊していただけないので、沿線市町と組み合わせて一帯にお金を落としていただける仕組みを作りたい、その一つに近江鉄道も果たせる役割があると思います。

沿線駅でのイベントの推進

和田市長…また、道の駅は各地にあります。上下分離方式では本物の駅を鉄道会社ではなく自治体が管理することになりますので、沿線の各市町がアイデアを出して、マーケットやイベントをするなど駅に特徴を出して、その駅を盛り上げ、駅周辺の賑わいを創出していただければいいと思います。

蔭山会長…確かに通学者数を増やすというのなかなか難しい話ですので、彦根市は彦根城など歴史のシンボルが多くあるので、観光のインバウンドで鉄道と一緒にやっていただければいいです。

**2024年度からの「上下分離」移行に向け
新団体「近江鉄道線管理機構」が設立**

県と沿線市町は線路等の鉄道施設を管理する「一般社団法人近江鉄道線管理機構」が設立。彦根市としては、近江鉄道の存続や活用について協議する「近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会」で協議決定した負担割合により、維持管理等にかかる経費を負担する。

仕組みとして、「管理機構」が近江鉄道の線路や車両、駅舎を維持管理。「近江鉄道株式会社」が運行を担当。



鳥居本駅



鼎談

国宝彦根城とまちづくり
—世界遺産登録に向けて— 彦根市

和田市長…少子化により生徒数が減っている中で、企業誘致と一体で通勤客に利用いただくというのも大事なのですがなかなかハードルは高いので、観光も増やして両輪でいかなければいけないと思います。それにはレトロの発信ということもこれから非常に重要だと思っています。例えば、車掌や昔ながらの切符切りがいる日本で唯一の路線とか、そういう仕掛けが欲しいなと思っています。レトロ回帰で誘客できると思いますし、ボランティアも募れるのではないかと思います。鳥居本駅には日本ならではの昭和レトロのわびさびといった原風景も残っていますので、映画の撮影に使っていただくよう誘致したり、これからもPRをしていきます。

「ガチャコン列車」 —「トーマス」の活用

蔭山会長…この間も近江鉄道に乗ったのですが、「ガチャコン」と言うようになってなかなか音がすごいですね。そういうところももっとPRしていくと面白いです。

和田市長…ガチャコンも静粛性の高い電車に直そうというのではなく、昔ながらの鉄道、風景、駅舎を楽しむことで、唯一の存在としてPRできればと思います。インスタグラムで映えるスポットもたくさんあるので、そういうPRの仕方をしたいと思っています。今でも「近江ビエラ電」などのイベントも開催されていますが、昭和の古き良き時

代を再現できるツールが残っているのが、近代化せず、いかしていく方がいいと思っています。

平居会長…静岡でも大井川鉄道が蒸気機関車を走らせています。「トーマス」です。

和田市長…アニメの「トーマス」はイギリスの田舎の想定ですが、近江鉄道は大井川鉄道よりもトーマスの原風景に似ています。大井川鉄道の二番煎じであっても、「トーマス」は世界ブランドですから、トーマスが走れば、子どもたちも楽しめるし、人も呼べます。インバウンドが回復した時に、お城もあるし、トーマスも走ってる、というところ、皆さん絶対に乗ると思いますので、可能性は追求していきたいです。いずれにしても、近江鉄道がなくなると影響が大きすぎますので、何とか存続させて、上下分離をしっかりとやる中で可能性を追求していきたいです。彦根市は、特に観光に力を入れて、1泊して食事もしていただけるよう取り組みたいと思っています。



近江鉄道のガチャコン列車



玄宮園から見た彦根城（冬青空）



彦根城（春）

世界遺産登録の条件と課題

世界遺産条約は昭和47(1972年)、第17回ユネスコ総会で「世界の文化遺産及び世界遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)が採択された。世界遺産はこの条約に基づき、人類全体の財産として国際的に保護・保全していくことが義務付けられている「文化遺産」「自然遺産」などのこと。「世界遺産」として登録するには、ユネスコの「世界遺産委員会」において遺産の内容に類例のない固有のものであり、国際的に決められた評価基準に照らして「顕著で普遍的な価値」があると認められなければならない。またその価値にふさわしい保存管理が手厚くなされていることも必要要件である。

国内の城入場者数(令和元年度)をみると、姫路城154.8万人、松本城89.3万人、彦根城73.3万人、犬山城56.5万人、松江城44.7万人となっており、JR米原駅や名神インターの近さなど交通の便が良いことが入場数の多さに寄与している。

和田市長…観光客の動線を夢京橋キャッスルロードからしっかりと四番町スクエアに引く張って、それから中央町に行くなり、銀座に行くなりという流れを作らないといけないので、まず一番端の四番町スクエアの再生から始めよう

和田市長…観光客の動線を夢京橋キャッスルロードからしっかりと四番町スクエアに引く張って、それから中央町に行くなり、銀座に行くなりという流れを作らないといけないので、まず一番端の四番町スクエアの再生から始めよう

和田市長…世界遺産登録のためには三つ重要なポイントがあります。一つ目はしっかりと保存できるかという管理体制の部分ですが、そこは文化庁等にもお認めいただいています。二つ目は地域の機運醸成の部分で、これも湖東湖北5市4町の商工・観光団体がコンソーシアムをつくっていただいたり、彦根でも1000人委員会をつくっていただいたりして進めています。三つ目は「顕著な普遍的価値の証明」で、こ

平居会長…それではその「価値」をどう証明しようと考えておられますか。
和田市長…彦根城には姫路城にない価値として、単なる建築物ではなく、平和のシンボル、象徴としての価値の証明を試みているところです。彦根城は戦を経験していない城郭で、彦根藩として江戸時代の二世紀半の社会安定を成しとげた平和維持体制を経て、築城から

彦根城世界遺産の登録へ
平居会長…それでは、ここからは彦根城のお話なのですが、「世界遺産の登録」はどうなりましたか。
和田市長…今年いよいよです。本当は昨年が勝負の年だったのですが、佐渡が推薦書の再提出をしているということ、一年先送りになってしまいました。平居会長…1992年世界遺産の暫定リストになりましたが。

「平和の象徴」としてのシンボル・彦根城
平居会長…それではその「価値」をどう証明しようと考えておられますか。
和田市長…彦根城には姫路城にない価値として、単なる建築物ではなく、平和のシンボル、象徴としての価値の証明を試みているところです。彦根城は戦を経験していない城郭で、彦根藩として江戸時代の二世紀半の社会安定を成しとげた平和維持体制を経て、築城から

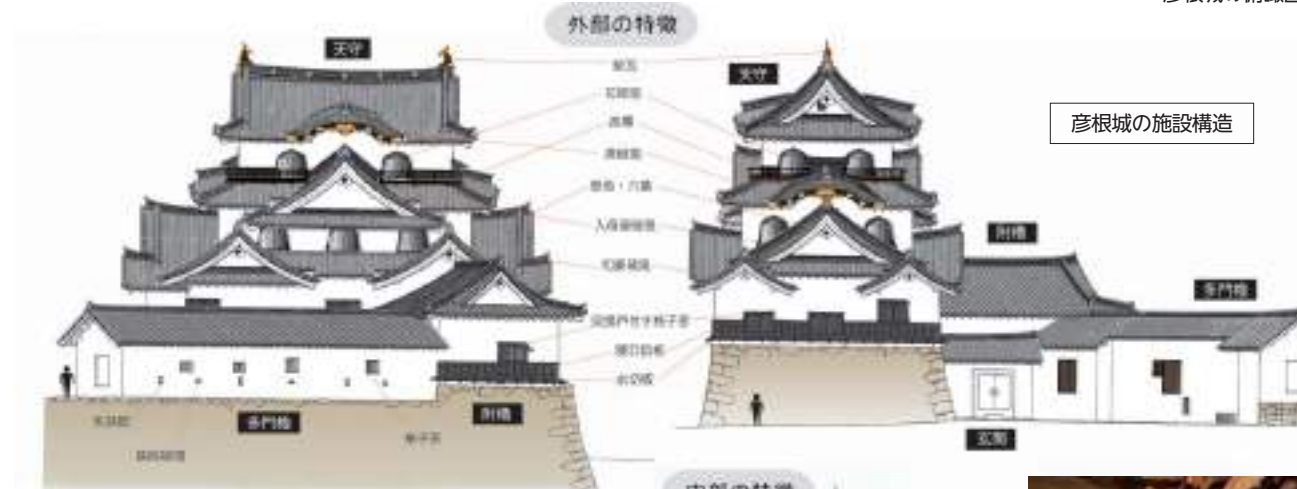
415年の間、平和的な象徴として今日まで維持してこられ、我々の中で息づいています。玄宮園からの景色もそうですし、色々な櫓も多く残っています。世界遺産として今後重視されてくるのは、SDGsと同じで持続可能性です。この地域に根付いて、これからも我々が文化財を保全・維持し、活用していく部分を証明していくという作業をしています。その辺を辿っていくと、姫路城と差別化ができます。世界遺産登録への基本的な三つの柱ができつつあると認識していますので、推薦書素案の作成に力を入れ、必ず国内推薦を取りたいと思っています。

今に伝わる文化遺産

指定区分	名称	指定年月日
特別史跡	彦根城跡 (中堀の内側、約48ha)	昭和31.7.19
国宝	天守・附櫓・多門櫓	昭和27.3.29
重要文化財	太鼓門櫓	昭和26.9.22
同	天秤櫓	昭和26.9.22
同	西の丸三重櫓	昭和26.9.22
同	二の丸佐和口多間櫓	昭和26.9.22
同	馬屋	昭和38.7.1
名勝	玄宮楽々園	昭和26.6.9



▲彦根城の俯瞰図



気品あふれる天守の姿



▲天守の構造

彦根城天守—慶長9(1604)年から築城が開始され、慶長12(1607)年までに天守が完成。天守は京極高次の大津城天守の移築説が有力。大津城5階4重。彦根城は3階3重で改築。天守は一重目に入母屋破風と切妻破風、二重目に切妻破風と軒唐破風、三重目に入母屋造りの屋根に軒唐破風がバランスよく配置されているのが特徴。
太鼓門櫓—県内の古城から移築された説が有力。
天秤櫓—左右に二重二階の櫓が均整の取れた構図でそびえている。
西の丸三重櫓—万治年間(1659-61年)に建設。一般的に浅井長政の小谷城の鐘丸が移築されたとされる説あり。
佐和口多間櫓—明和8(1771)年に再建。
馬屋—全国の城でこれだけの大規模な馬屋は他に例がない。内部に21の馬立場あり。





あしがるノイエ



ハレトケト



四番町スクエア



夢京橋キャッスルロード

アドバイザーのお話

鈴木大祐・(株)鈴木古建築・棟梁

彦根にはまだ多くの指定文化財建造物が残っておりますが、未指定の歴史的建造物も多くあります。このような物件が狭い範囲に残っているところは非常に少なく、これこそ彦根の観光資源です。しかし、資源になる建物が消失の一途です。このような建造物を残すためには異動のない専門の方を置いていただき、災害時には緊急で使える（埋蔵文化財のような）基金の設置をお願いしたい。

渡邊弘俊・辻番所の会 会長

足軽屋敷
バーチャル資料館▼



コロナ禍で足軽辻番所サロン（講演会）もできませんでしたが、ようやく動き出しました。最近では「足軽屋敷バーチャル資料館プロジェクト」（彦根景観フォーラム主催・辻番所の会協力）が完成し、修復中だった中居邸も加わり、彦根市指定文化財の7棟がWEB上で足軽屋敷をみることができます。築城以来400年余り変わらぬ芹橋地区の足軽屋敷群の「町割り」が残り、歴史的価値も高まっています。

また、芹橋地区で長年取り組んできた「防災広場」も3年後には完成する運びになっています。これも芹橋地区でのまちづくり活動の町内会での永年の努力の成果です。このほか、最近では「あしがるノイエ」（工房）や「ハレトケト」（ローチョコレート店）等も展開中。

中川一志郎・再興湖東焼当主

昭和61（1986）年、湖東焼の再興を計りました。青みを帯びた素地、画風とすべてを湖東焼の流れに沿わせていつの日か平成の、令和の湖東焼として誇れる作品を焼き上げようと努力しています。令和2（2020）年には一志郎窯の隣に「ギャラリー&茶房みごと庵」（旧足軽屋敷林邸に）を開設。お茶を飲んでもらえるスペースを確保しました。



▲再興湖東焼



▲ギャラリー&茶房みごと庵

彦根駅前の整備

「ウォーカーカブル地域」として

平居会長…私は三島に住んでいます。人口は11万人くらいで彦根と同じくらいです。三島と彦根との違いですが、三島は駅前に人が歩いていますが、彦根は歩いていない。
和田市長…今は駅前ですらシャッター街になっていきますから。
平居会長…三島駅を降りるとすぐに土産物屋があり、小さな公園もあります。何

「足軽屋敷群」の活発な動き
平居会長…その点からいえば、芹橋の「足軽屋敷群」が活発に活動していると思います。

今までの街づくり

銀座商店街（1961年～1973年）、夢京橋キャッスルロード（1985年～1998年）、花しょうぶ通り商店街（1999年、2016年重要伝統的建造物群保存地区指定）、四番町スクエア商店街（2001年～2004年）がそれぞれ整備されたが、ハードが中心であった。

と思っと思っています。四番町スクエアにはしっかりとした箱もの、ハードはできているのですが、如何せんソフトー販売する物が弱く、夢京橋キャッスルロードの途中で帰ってしまったわれているというのが現状で、観光客が周遊できていないです。

今後は「何を売るか」が重要

和田市長…銀座もそうなのですが、過去に実は割と彦根市は道をグネグネさせたりと、アーケードを作り直したりとお金を投入してきたのですが、やはり大事なのは建物や道がどうかより**何を売るか**だと思います。昔は銀座に肩が当たるくらい人が集まっていたのも、やはりその時々で買いたい物があつたからです。まず第一段階として、何とかシャッターを開けていたきたい。誰かに貸す、若者にチャンスを与えるのもいいと思います。せっかく半数が頑張っている、残りの半数のシャッターが閉まっていたら、そこはシャッター街だと思おうので、何とか自助でせめて7割くらいはシャッター

旅文化の変質・厚み

名所旧跡巡りから生活や文化の体験と交流に関心が変化してきている。一時の娯楽ではなく、「**旅を自分の人生の変化と成長につなげたい**」という、心境の変化。

欧米諸国はすでに多くの外国人観光客を受け入れて対応している。ハワイでは観光局が住民の声を聞き、課題発生前に対応している。例えば、生活バスとは別に大型の荷物を持ち込める観光客用バスを用意している。スペインも持続可能な、質の高い観光を目指すよう政策誘導。ふだんからの住民自治と、旅という文化への理解。この両輪があって、住民にもプラスになる観光が成立している。



観光と文化

旅は単に日常を離れて「癒し」をもたらすだけでなく、**文化体験を通して、様々な感動や知識・智恵を提供できる**。観光と文化は互いにサポートしあう関係になり、文化はこれまで以上に観光における**価値の提供の大きな部分を占めるようになってきた**。官民協働による文化を基本にした観光の推進が求められている。行き過ぎると、交通渋滞や文化資産の消費しすぎ、地元のコミュニティに損傷を与えることにつながる。文化の保護と観光とのバランスを保つことが重要。持続可能な文化ツーリズムの枠組みを構築することが求められる。旅行者が自然に街に溶け込み、良い刺激を与えてくれる存在。「彦根屏風」も江戸初期の風俗を、歴史を、生活を感じ取ることができる存在。



▲彦根屏風

和田市長

…やはり、玄関口は大事です。先ほどの動線にも関わるのですが、立花船町線という銀座方面へのみ進行できる一方通行の市道があるのですが、今度、長年の懸案であった一軒の立ち退きの代執行をすると、ようやく双方向で対面通行できるようになります。そうすると駅前通りは片側2車線の必要はなくなるので、片側1車線にして、

平居会長

…飲食店も寂しいですね。**和田市長**…人を呼べないと飲食店には入ってもらえませんので、駅前には入口として整備していきます。グリーンロードモビリティの社会実験もしています。が、ゆっくりとした電気バスを走らせたりして、駅前から動線で四番町スクエア、銀座を回って帰ってくるような

彦根駅から護国神社までの道を県のウォーカーカブル推進事業で歩道を広げてカフェ等が建ち並ぶような整備をしたいと考えています。歩道の幅を広く取って、賑わいのある歩行者天国にできるような、片側一車線にすることに取り組みますので、ひとつ足がかりにしたいです。

を開けていただきたい。そうしないとイメージが変わらないのです。彦根市は滋賀大学、滋賀県立大学、聖泉大学、ミシガン州立大学といった大学があります。大学院生を入れると約6千人も学生がいます。今後、しっかりと産官学連携をし、そういう方々にチャレンジショップのようなことをしても出してくるチャンスにもつながるので、もつと大学等と連携して、若者の勉強にもなるのでビジネスのチャンスを開いていただくといい。建物をきれいにしても売れる物がなかったら人は来ないので、それよりも何を売るかです。そういう意味でのビジネスを、賑わいの創出をしていきたいと思っています。



彦根城堀



辻番所



中居邸 (施工: 株鈴木古建築)



ひこね街の駅: 寺子屋カ石



滋賀中央信用金庫銀座支店

なので、どんどん「おもてなし」ができるまちにしていきたいと思いき、歴史も発信して誘客できるようにしていきたいです。

蔭山会長…彦根には大津や近江八幡にあるようなパーティーができる5百人千人規模のホテルがないので、是非とも設けてもらいたい。

和田市長…彦根には大きな会場がないですし、宿泊施設もまだまだ足りないのので、世界遺産をきっかけに今後誘致活動を進めていきたいと思っています。

平居会長…最後に、全国の県人会の皆様メッセージをお願いします。

和田市長…日頃からふるさと納税等でも大

変お世話になりました、ありがとうございます。滋賀県全体が発展できるよう彦根市も尽力してまいりたいと思っておりますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

蔭山会長・平居会長…公務、多忙の折、長い間お時間をいただき、ありがとうございます。

和田裕行 (主なプロフィール)

- 1970年10月14日 彦根市生まれ
- 1989年3月 滋賀県立彦根東高等学校卒業
- 1993年3月 慶應義塾大学理1学部 管理1学科卒業
- 1997年、アパレルブランド創業経営
- 2021年5月10日 第25代彦根市長 就任

日本遺産

47都道府県で108件、滋賀県は2020年6月に「琵琶湖とその水辺景観—彦根は彦根城と玄宮園、お浜御殿」に指定を受ける。文化資源活用補助金は上限5千万円、22年度は約7億円交付されています。評価制度を設け、審査している。

最近では「ぎぶ信長まつり」が話題になった。



▲玄宮園

仕組みを近い将来につくりたいと考えています。

平居会長…七曲りも一つの文化としてあります。仏壇なども。

和田市長…残っている貴重な街並みの一つです。

スクエアにも映画関係でミュージアム的なものを作って、動線にしたいとも思っています。

コンテンツ産業は、今ではネットやテレビ配信の時代になって資金集めがしやすく、製作費が集められるようになりました。以前より撮影の環境は整いつつあり、映画はこれからコンテンツとして重要になってきますので、そういう意味で観光の柱として映画やドラマに力を入れていきたいと思っています。

「映画」に力—観光の目玉の推進

和田市長…もう一つまちづくりというところで、我々は今映画に力を入れていきます。実際に、『近江商人、走る!』もかなりのシーンがオープンセットで撮影されていますし、木村拓哉さん主演で話題の『THE LEGEND & BUTTERFLY』も彦根城や琵琶湖で撮影されています。彦根にはオープンセットと、昔の本物もありますので、時代劇がよく撮影されています。人口がそれほど多くなく、米原駅からも近く、地の利もあります。琵琶湖など自然もあるので映画の撮影に向いていると思います。四番町

お茶に造詣の深い直弼を

「平和の象徴」

平居会長…三島と比較してしまっていますが、三島は地元の人で普段から賑わっている場所がありますが、彦根にはそういう場所がない。市長のおっしゃる取り組みをされると、自然と外部から人が流れてくると思いますが、四番町スクエアにしても夢京橋キャッスルロードにしても外からだけでなく、地元の人で賑わえる場所がほしいです。例えば、彦根城を誇りにして、彦根市民が行きやすいイベントとか。私は茶道をしているのですが、お茶のイベントなど彦根城に見合った文化的なことももっと発信していくと良いと思います。

和田市長…おっしゃる通りです。2月議会に井伊直弼の一期一会の茶の湯条例というのを上程します。茶人・文化人としての井伊直弼にもクローズアップし、茶道を通じて直弼が提唱した「一期一会」の精神の継承・定着・普及の促進を図ることで、文化の香り高いまちの実現を目指します。井伊直弼は歴史の教科書では悪者とされていますが、行政官として、文化人として優秀な面があります。そのような郷土に誇りを持つ部分や文化や教育を見直す一つのスタートにしたいと思っています。

平居会長…彦根には井伊直弼の他に石田三成もいます。彦根城と佐和山城が見え、歴史的にもとても面白い場所です。

和田市長…まずは順番としてしっかりと世界遺産をお認めいただくことですが、石田三成も米原、長浜、関ヶ原との連携もできますし、同時並行で進めていきたいです。

彦根は、NHK日曜夜の大河ドラマ第一回「花の生涯」(舟橋聖一著、主役は井伊直弼)が放送され、彦根城が観光の目玉として注目されました。そのため、今までは彦根城におんぶにだっこで来て、ポテンシャルを活かせてきませんでした。これからは観光も競争

Interview between Mayor Hikone Wada and Furusato Shiga Kenjinkai Chairman Kageyama And Shizuoka Shiga Kenjinkai Chairman Hirai.

Ohmi Railway reform Scheme—Established the Ohmi Railway Line Management Organization as a local government along the Ohmi Railway. The railway facilities such as tracks will be managed, and Hikone city will contribute according to the share of the burden.

Toward the registration of Hikone Castle as a World Heritage Site—It was provisionally listed in 1992, but since Himeji Castle was registered, it is impossible to register the same type in the same country. Therefore, we are considering another value for Hikone Castle: the daimyo culture of 260 years in the Edo period.

In recent years, "travel" has focused on visiting famous and historic sites, but interest has shifted to "culture and experience." Therefore, in the case of Hikone as well, the route of Hikone Castle Road—Hanasyobu-street—Buddhist altar street—Serikawa Zenkōva road—Kotouyaki—ashigaru Yashiki has been developed, centering on the "castle town tour" to experience Hikone's culture and life.